

地に生きる、地を生かす

第76号



地域人

CHIJKJIN

巻頭インタビュー

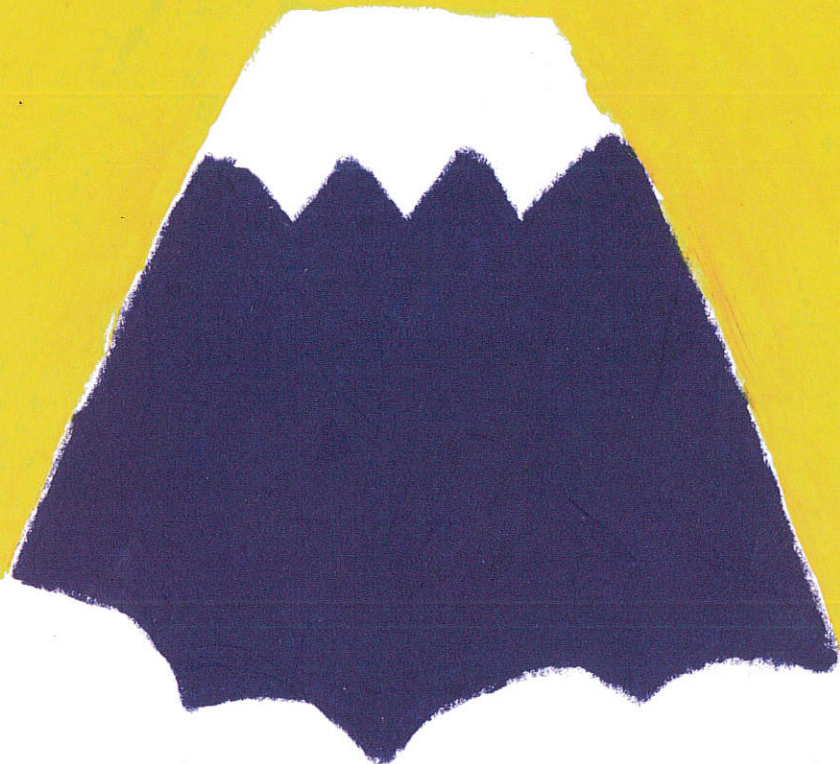
堀澤祖門

泰門庵住職
前・三千院門跡門主

悟りとは
意識を変換すること。
人間は誰も
「泥を被った仏」

連載

養老孟司
北川正恭
島蘭進
小峰隆夫
森まゆみ
二宮清純 ほか



特集

日本の聖地

| 信仰と観光 |

聖地 にぎわいの深奥に在るもの
比叡山延暦寺 十二年籠山行
東大寺二月堂 修二会
羽黒修験 秋峰
伊勢神宮 日別朝夕大御饗祭
藤田庄市 フォトジャーナリスト

変容を続ける富士山信仰
古田尚也 大正大学教授

観光資源としての聖地
出羽三山、富士山
伯耆大山、白山 ほか
鈴木正崇 慶應義塾大学名誉教授

絵葉書に見る聖地と観光
島立理子 千葉県立中央博物館
柴崎茂光 東京大学准教授

なぜアマビエの聖地は存在しないのか
疫病と令和の御代の流行神
岡本亮輔 北海道大学大学院准教授

立って入浴する 日本一深い天然岩風呂

鉛温泉 藤三旅館

岩手県花巻市

開湯600年以上の歴史を持つ、源泉100%掛け流しの温泉が自慢の「鉛温泉 藤三旅館」には、湯船の深さ1・25mの岩風呂がある。その深さの謎と、世にも珍しい立位浴の効果とは。



3階まで吹き抜けの開放感あふれる「白猿の湯」。大人が立って入浴しても、肩まで浸かるくらい深い。

岩手県花巻市の奥羽山脈中腹にある老舗温泉宿「鉛温泉 藤三旅館」。総けやき造り3階建てのレトロな外観は、まるでジブリ映画『千と千尋の神隠し』に登場する湯屋のようだ。

文人に縁があり、昭和の小説家・田宮虎彦が約1カ月逗留したことがある。著作『銀（しろがね）心中』は、かつて館内の一角にあった床屋で散髪した際に聞いた、理容師の身の上話を

ヒントに執筆されたものだ。館主の遠い親戚に当たる岩手県出身の詩人で童話作家の宮沢賢治も度々泊まりに来ていた。童話『なめとこ山の熊』に「鉛の湯の入口に」という一節も見ら

れる。

同館の特徴は上質な温泉。「新日本百名湯」「温泉遺産」にも選出された、600年もの歴史を誇る名湯なのだ。

1443年頃、高倉山麓できこりをしていた創業家の先祖が、河原の桂の木の根元で傷を癒す白い猿を発見。根元から湧き出していた温泉が、今も受け継がれている鉛温泉だ。館内4つの浴場を満たす温泉は、加熱・加水・循環一切なしの源泉100%の掛け流し。泉質は単純温泉・アルカリ性単純高温泉で、神経痛、リウマチ、胃腸病などに効能があるとされる。

大浴場「白猿の湯」は、浴室に入ると階段があり、下りた先に脱衣所、洗い場、湯船がある一風変わった造り。そして、深さ1・25mもある日本一深い自噴天然岩風呂がある。

天然の岩をくりぬいた湯船の底から、透き通った湯がこんこんと湧き出る。下手をすると溺れる恐れさえある深さだが、なぜそんなに深いのか。

現在ほど科学が発達していない当時、源泉から湧き出る湯量が減ったことがあり、掘ればまた湯が出ると考え、湯量が減る度に掘削を繰り返していた。ところが、これ以上深く掘ると、



1 豊沢川の渓流と木々の緑を窓から望む、昭和レトロな客室。文人たちに思いを馳せながら、くつろぎのひとときを過ごす。2 昭和16年(1941)に建てられた木造3階建ての「藤三旅館」本館は風情ある佇まい。



すぐ近くを流れる豊沢川の水が逆流してしまうため、現在の深さに落ち着いたという。

これだけの深さがあると、立って入浴することになるが、果たしてリラックスできるのだろうか。鉛温泉社長の藤井大斗さんに聞いてみた。

「水の浮力により、力まずにくつろいで入浴できます。実は立位浴は適度な湯圧がマッサージ効果をもたらすことが、科学的に証明されています」
通常は源泉から湯船まで配管

等で湯を引くが、この岩風呂は浴槽の中心部から源泉が湧き出ている。そのため、お湯が空気に触れて酸化することなく、温泉の成分を存分に享受できる。

また、立って浴槽内を歩くことで、腰痛を緩和できるなど、いいことづくめ。今どき珍しい混合浴だが、女性専用の時間もあるのでご安心を。

長逗留にはリーズナブルな自炊の湯治部もあるので、ぜひ立位浴を堪能してみてください。
(小山内美貴子)